

令和4年度いきものガイドウォーク(全10回)

月	日	担当	観察内容	写真1	写真2	コース図
4	23	久保 渡辺	<p>テーマ:小さなお花見 ～目立たない花の観察～</p> <p>天候:晴 参加者:14名</p> <p>モミジの花、ケヤキの花、ブナ科の花・・・普段目にする事のない小さな花にスポットを当てて観察。</p> <p><観察した主な植物> ヤマグワ、モミ、ケヤキ、ムクノキ、イロハモミジ、サワラ、カヤ、モチノキ、スダジイ、御衣黄など</p>			
5	28	河野 善宝	<p>テーマ:実りの秋に備える～受粉と若い実～</p> <p>天候:快晴 参加者:9名(ほかに幼児1名)</p> <p>花の形態(両性花、雌雄異花、雌雄異株、装飾花など)、受粉の仕方(風媒、虫媒、鳥媒など)、種子の散布の仕方(風散布、動物散布、水散布等)について、植物ごとに観察した。また、ヤマグワとヤマザクラの実を味わった。</p> <p><観察した主なもの>ヤマグワの実、アジサイの花、モクレンの実、ヒマラヤスギの球果、ヤマザクラの実、エノキの実、モチノキの実、ヤマボウシの花、イロハモミジの実、クスノキの花、ユリノキの花、ドクダミの花、マテバシイ・スダジイの花</p>			
6	25	佐藤 松本	<p>テーマ:航空公園で樹木を探そう, 学ぼう!</p> <p>天候:晴れ(35度近くの猛暑)</p> <p>参加者:9名</p> <p>観察会を始める前に事前に用意したA4用紙(市の木や市章など観察予定の内容)に記入してもらい、歩きながら埋めてもらった。暑さもあつたため、一か所あたりの説明はコンパクトに行い11時過ぎには観察会を終えた。</p> <p><観察した主な生きもの> ガクアジサイ(花), リョウブ, イチョウ(実), マテバシイ(花), エノキ, ウラナミアカシジミ, コナラ(ナラ枯れ), オニドコロ, ヤハズソウ</p>			

イロハモミジの雄花

サワラの雌花序

<ユリノキ>
北アメリカ原産、幹はまっすぐで30mになるが原産地では50m近くになるものもある。チューリップに似た花を付けるので、チューリップツリーとも呼ばれる。

<ドクダミ>
匂いが強く厄介な雑草で、その名から毒がある?と嫌われている。実は毒を抑えるという意味から由来する。十種の薬効があり、古くから重宝された。

<所沢市の市章>
所沢市の旧町名は「野老沢(ところざわ)町」でオニドコロが繁茂していたところからつきました。

<ナラ枯れ>
カシノナガキクイムシによるナラ枯れは公園内でも確認でき、放置され大径化した木に被害が多く、人との関係が影響しています。

9	24	河野	辰尾	台風接近により中止			
10	22	善宝	河野	<p>テーマ:実りの秋～どんぐり他～</p> <p>天候:曇</p> <p>参加者:9名</p> <p>5月に実施した「実りの秋に備える」の続編として、当時観察した木の実が秋になってどう変化したかを確認した。地上に落下している2年成のマテバシイとスダジイの実を拾い、甘く熟しているエノキとムクノキの実を味わい、ユリノキの実と新芽が併存している様子、モクレンの新芽、ヒマラヤスギの球果などを観察した。その他、コナラ、モチノキ、サワラ、ハンノキ、ウメドキの実を観察した。カツラの落葉の芳香も楽しんだ。途中、ガイドが用意した、マテバシイのコーヒー風お茶を飲み、炒ったマテバシイとスダジイの実を食べてもらった。</p>			<p>今日歩いたコースは・・・10月22日(土)</p> 
					<p><スダジイ> ブナ科シイ属の常緑高木。6月頃穂状花序を出す。花には強い香りがあり、甲虫やハナアブ、蜂類が訪花する。堅果は殻斗に包まれ、熟期は2年生。樹皮に含まれるタンニン、黄八丈の黒色部の染料に使用される。</p>	<p><ウメドキ> モチノキ科モチノキ属の落葉低木。葉や枝が梅に似ていることからウメドキ。山間の湿地や雑木林に自生するが、晩秋にできる赤い果実が美しく、庭木、盆栽、生け花の花材としても利用される。モチノキの間では数少ない落葉樹。</p>	
11	26	佐藤	芳野	テーマ:			
12	17	渡辺	久保	テーマ:バードウォッチング			
1	28	河野	佐藤	テーマ:			
2	25	辰尾	松本	テーマ:			
3	25	芳野	善宝	テーマ:			